

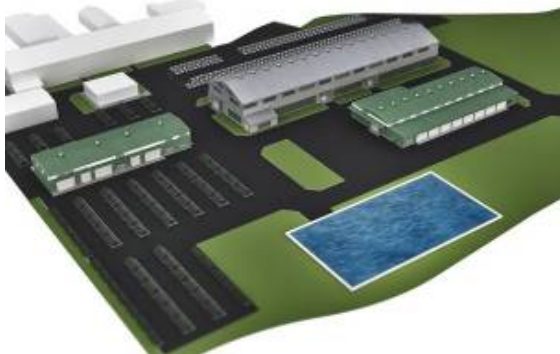
CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	タンレイ工業(株) 鍛造棟
建設地	北区 太田字松影甲132地
用途地域	工業地域
建物用途	工場
竣工年	2011年11月 予定
敷地面積	51,406.95 m ²
建築面積	3,801.56 m ²
延床面積	3,758.96 m ²
階数	地上1F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2011年7月6日



2. CASBEE新潟の評価結果



S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

B+

$$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{54}{47} = 1.1$$

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.1		バリアフリー	3.0
			維持管理	2.5
			更新性	3.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

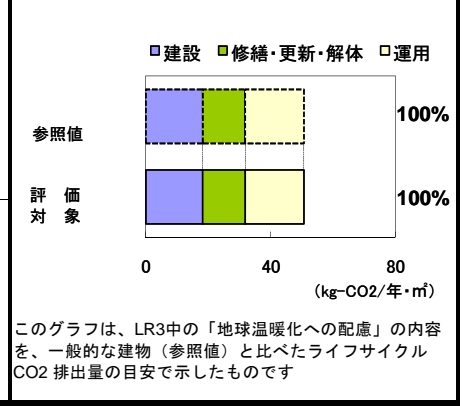
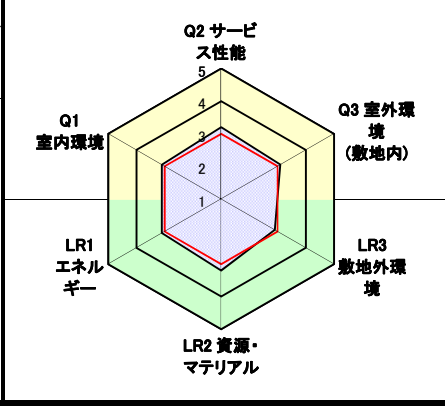
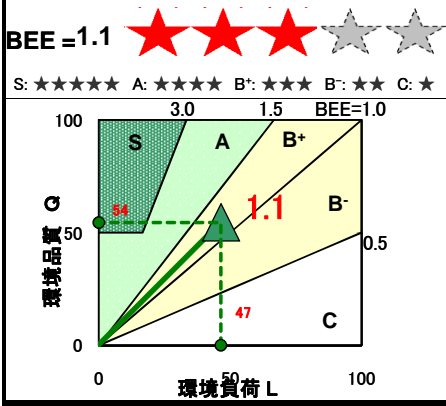
4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・建築的にハイサイドライトを設けることで工場内に多く自然光を取り入れることを図った。
- ・排熱を促すために開口部の確保を図った。
- ・新潟西部工業団地に隣接し、周囲を田園に囲まれた計画地であるため敷地周囲の緑化を図ることによって豊かな中間領域と干渉地帯を設けることで調和を図った。

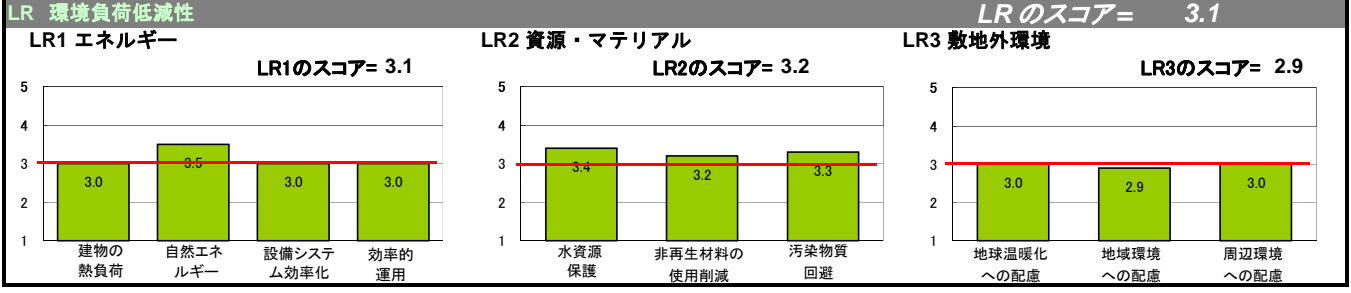
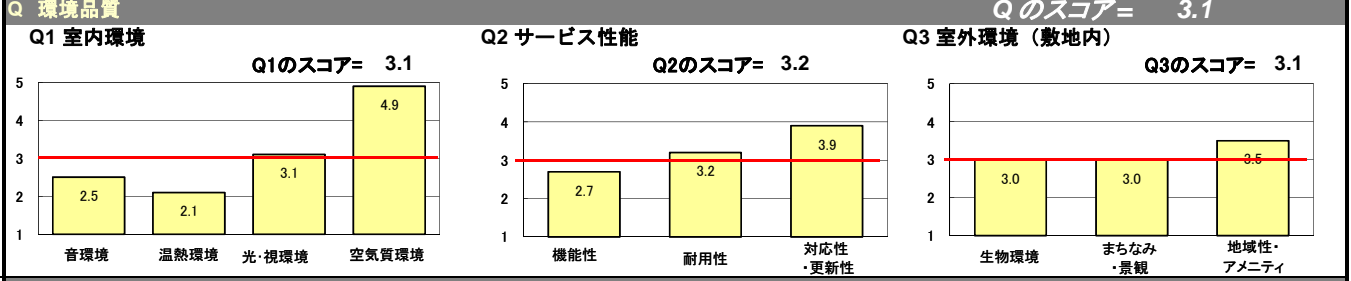
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 作業環境への取組みとして清潔感のある作業場を目指し、防汚性・清掃性への配慮、採光・通風への配慮を施した建物計画とする。又、周辺環境への取組みとして潤いのある風景を目指し、敷地周囲への配慮を施した外観及び外構計画とする。	その他
Q1 室内環境 工場内の自然光取入れと、換気のための開口部の確保を図る。	Q2 サービス性能 工場・WCの床を、耐久性・防汚性・清掃性のある仕上げとすることで作業環境の維持管理を図る。
LR1 エネルギー 高効率照明器具の選定、作業に合わせた照明のゾーンニングを行うことで省エネを図る。	LR2 資源・マテリアル 節水タイプの衛生設備機器の選定をすることで資源の節約を図る。
	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制対策を行うことで排水負荷の低減を図る。
	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地周辺に緑地帯を設けることで周辺との調和と環境負荷の低減を図る。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される